

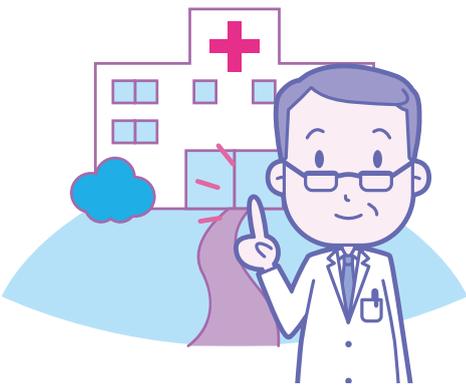
# 公立久米島病院だより



病院長 深谷 幸雄

私がこのコーナーを受け持たせていただいているので3年近くが経過しました。病気の予防のためにまず検診を受けて自分の身体に注意を払いましょう、から始まり、生活習慣病についてお話ししてきました。肥満、高血圧、糖尿病、脂質代謝異常、高尿酸血症などの病態や治療、予防についてのお話でした。その後これらに病気に悪影響を与える生活習慣として、アルコールや喫煙についてのお話が続きました。さてこれから何を話していきたいと思いますか。皆さんの中で病気や健康のことで疑問に思っていることや知りたいことはありませんか？それらのことを一つ一つ解説していくのもいいかと思っています。役場の広報担当の方に伝えていただければ、解説していきます。私で難しいようなら適任の方にたつて解説していただきます。ぜひ「病気や健康のことで疑問に思っていることや知りたいこと」をお寄せください。

来院していただければいいのです。もちろん採血などがある場合は予約の1時間ぐらい前には来ていただけると予約時間に診療できます。逆に言うと来院する手段や時間に制限のある方は、その時間を医師に伝えて予約を取るようにしてください。ぴったりその時間に合わせられない場合もあるかもしれませんができるだけ予約時間に診療できるように我々も努力いたします。予約された皆さんも予約の日に予約時間に合わせて来院する努力をしていただきたいと思います。身近な病院と言うことでありがたいことかもしれませんが、予約の日に来られない方があまりに多いような気がしていますので、もう少し予約を大切にいただきたいと思います。



## 発達障がいってなに？

発達障がいを知らうシリーズ①

小児科医 渡邊 幸

今回から「発達障がい」についてお話ししていきたいと思えます。「発達障がい」とは何でしょうか？言葉は聞いた事はあるけど、どのような事かはよく分らないという人の方が多いのではないのでしょうか。

「発達障がい」というのは主に、①注意欠陥／多動性障害(特徴：落ち着きのなさ、集中力のなさ)、②自閉症スペクトラム(特徴：空気が読めない、こだわりが強い)、③学習障害(特徴：読み・書きなど特定の科目だけが苦手)、④軽度精神発達遅滞(特徴：

全般的に軽度知能が低く当該学年の学習について行けない)の総称で、これらによって日常生活や学習上の困難を生じた場合に診断されます。これらは、育て方や本人の怠惰等のせいではなく「生まれつきの脳の機能の特性」が原因で起こることであり、その特性を周囲が十分に理解してサポートしたり、環境を整備することがとても大切です。

発達障がいは、ケガをしたり熱を出したりするようには、分かりやすい症状があるわけではないので、本人も周囲も「気づきにくい」という特徴があります。そのため、診断がつくまで本人は「わざとじゃないのにどうして僕

だけいつも怒られるんだろう」「どうして僕は皆みたいに上手く出来ないんだろう」と悩み、気づくのが遅ければ遅いほど「どうせ僕は何をやっても上手く行かない」と、自尊心が低下してしまいます。また、母親も「なんでこの子は何度言ってもできないの。どうしたらいいのかしら。」と、育てにくさを感じていることが多いですが、発達障がいを疑わなければ「この子の性格だから仕方ない」とあきらめてしまったり、周囲からは「育て方のせいではないか」と思われてしまいます。

発達障がいを疑うポイントには、「本人も周囲も努力しているけれども生活や学習において困難さがある」「小さい頃から育てにくさがあった」「兄弟の中でその子だけ特に育てにくさがある」などです。発達障がいである事に気づくのが早ければ早いほど、その後の社会生活への適応がしやすくなる事が分かっています。何より、気づかないままにいると本人が一番苦しく、日々困難を抱えながら過ごすことになつてしまいます。気になることがあればまずは学校や福祉課(親子支援事業)、小児科等で気軽に相談してみましよう。